

昔は「百々川」、今は「八木沢川」

「八木沢川」は、大正初期以前は百々川の支川であり、千曲川合流部は「百々川」として千曲川に合流していました。その後大正末期に「百々川」は上流の村山橋付近で千曲川に合流するように改修が行われ、現在の形へと変化しました。

このような経緯をもとに、今日まで樋門の名称は「百々川樋門」と呼ばれてきました。今回の樋門の竣工にあたり、平常時や洪水時における適切な管理を目的とし、「八木沢川樋門」に改称することにしました。

全体図

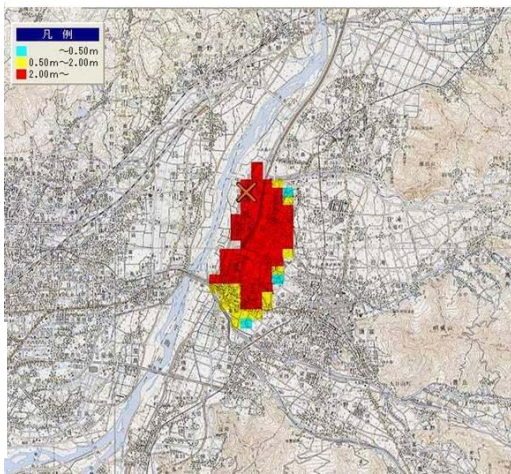


詳細図



浸水被害想定シュミレーション結果

想定浸水面積	約600ha
想定浸水戸数	約1,500戸
想定被害額	約1,500億円



※旧百々川樋門の作動不良などにより、千曲川の逆流や八木沢川の氾濫がおきた場合に想定される浸水深を表示。



特定構造物改築事業

水門等の大規模構造物が老朽化した場合などに、集中的な投資で必要な改築を行い、その機能の回復を図ることが「特定構造物改築事業」です。

八木沢川樋門の概要

信濃川水系 八木沢川



平成18年7月千曲川増水状況



国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所

〒380-0903 長野市鶴賀字峰村74番地 TEL026-227-7611

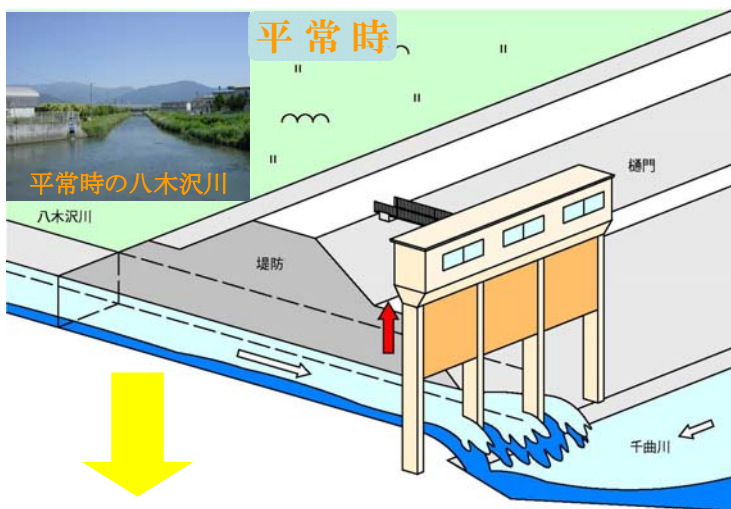
旧:百々川樋門の改築経緯

百々川樋門は昭和9年に設置されて以来、千曲川の洪水時には逆流防止等の重要な役割を果たしてきました。

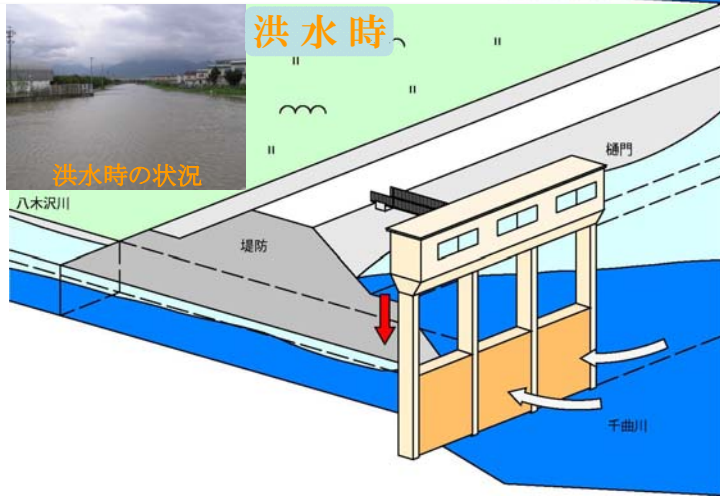
しかし、設置後70年以上が経過し、樋門の内部には、ひび割れによる漏水や表面剥離など、著しく老朽化が進行したため、現樋門下流側に『八木沢川樋門』として全面的に改築しました。



樋門の役目



平常時は、多少の降雨でも千曲川の水が低いいため、八木沢川の水は樋門を通り、自然排水されます。



洪水により千曲川の水が上昇した時は樋門を閉じ、千曲川の水が逆流しないようにします。八木沢川樋門には、農地等の湛水を防ぐ目的で、相之島排水機場(須坂市)が併設されています。

八木沢川樋門の概要

★位置	長野県上高井郡小布施町大島地先		
★事業期間	平成16年度～平成19年度		
★総事業費	1,520百万円		
★本体諸元	扉体	鋼製ローラーゲート	幅6.5m × 高3.3m × 3門
	開閉速度	0.3m/分	
	樋門全長	34.5m	
	堤外水路工	430m	堤内水路工 105m

